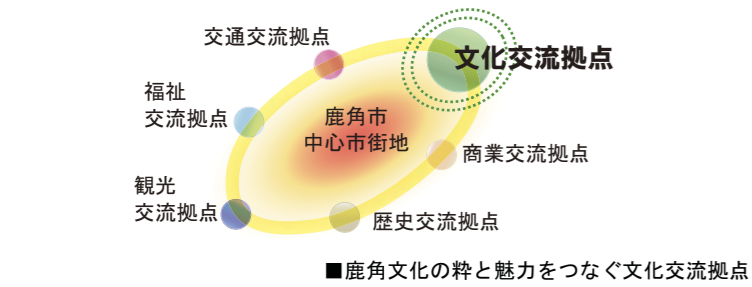


〈課題1〉 5つの施設・機能で構成する複合施設として、施設相互の有機な結びつきや共有空間の有効活用など、複合施設のメリットを最大限発揮するための考え方について

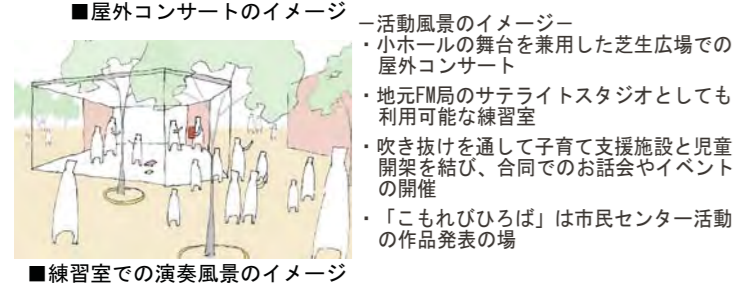
①鹿角文化の絆と魅力をつなぐ交流の場をつくります  
 ・本施設が新たな交流拠点となり、既存の交流拠点とともに中心市街地に人の流れや賑わいを呼び込み、鹿角文化を発信する文化交流拠点となります。



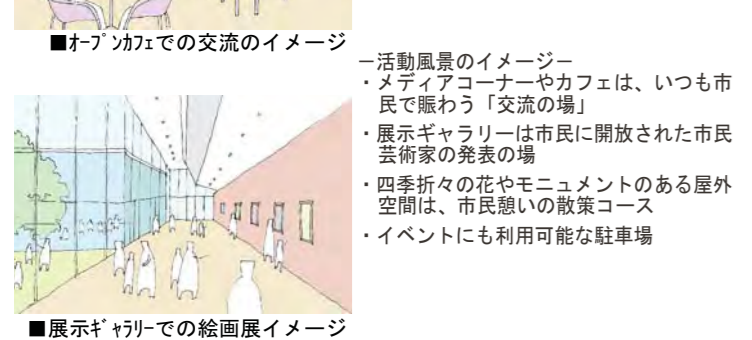
②内外に広がる緑豊かな環境が複合施設の有機的結びつきを高め、「魅力あるまち」をつぎます



■互いが触れ合う関係性は、市民の活動をより活発にします  
 ・敷地周囲からも見える屋外広場の活動や、演奏風景がこもれび広場から見える練習室など、触れ合いあ関係を積極的につくり、複合施設としてのメリットを最大限活かします。

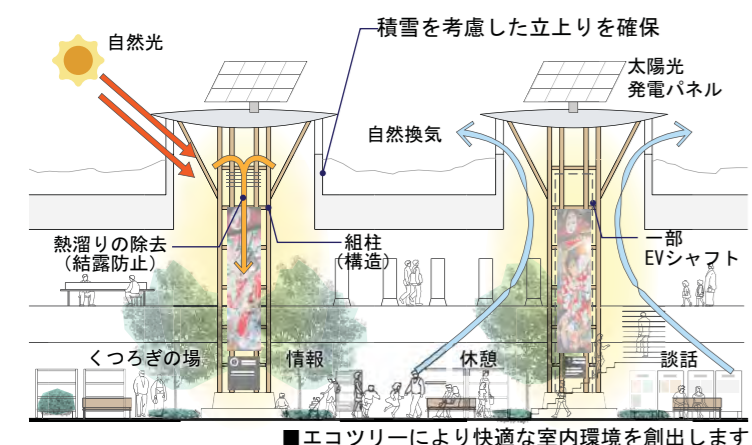


■オープンスペースは、利用者同士や多世代間の交流を促します  
 ・いつでも市民を向かい入れくつろげる自由に利用できる「こもれびひろば」を中心としたオープンスペースは、日常の会話を生み出し市民交流を育みます。



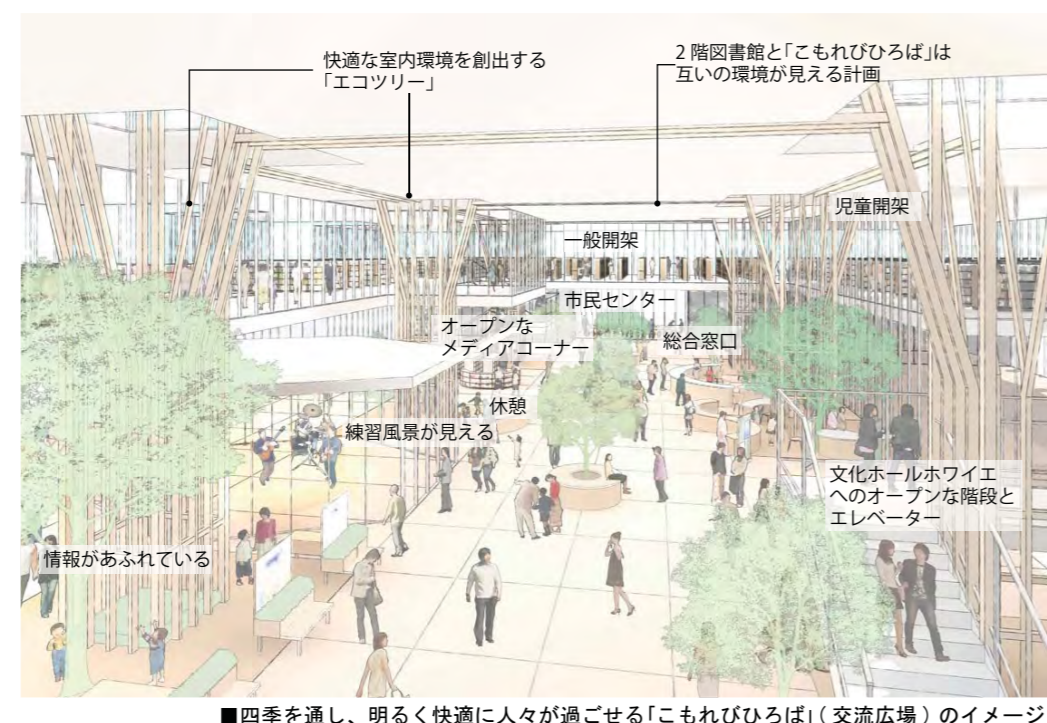
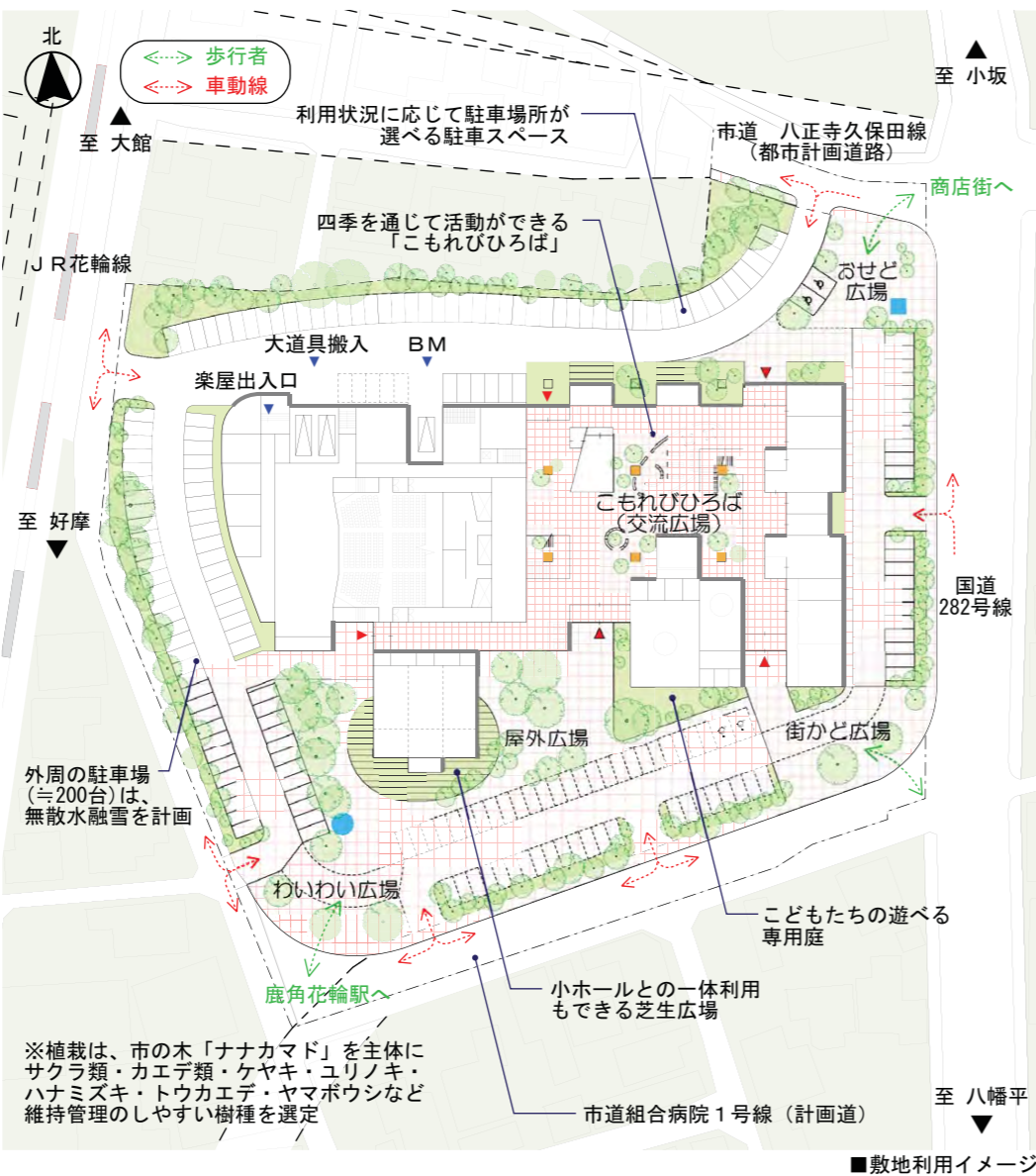
③「エコツリー」は人々が自然に集まる快適な空間を創りだします

・エコツリーからのやわらかいハイサイドの光や風が「こもれびひろば」に入り、緑の潤いのあるインナーガーデンはギャラリーでの展示会やブラウジングなど、市民が自由に利用できる交流空間になります。

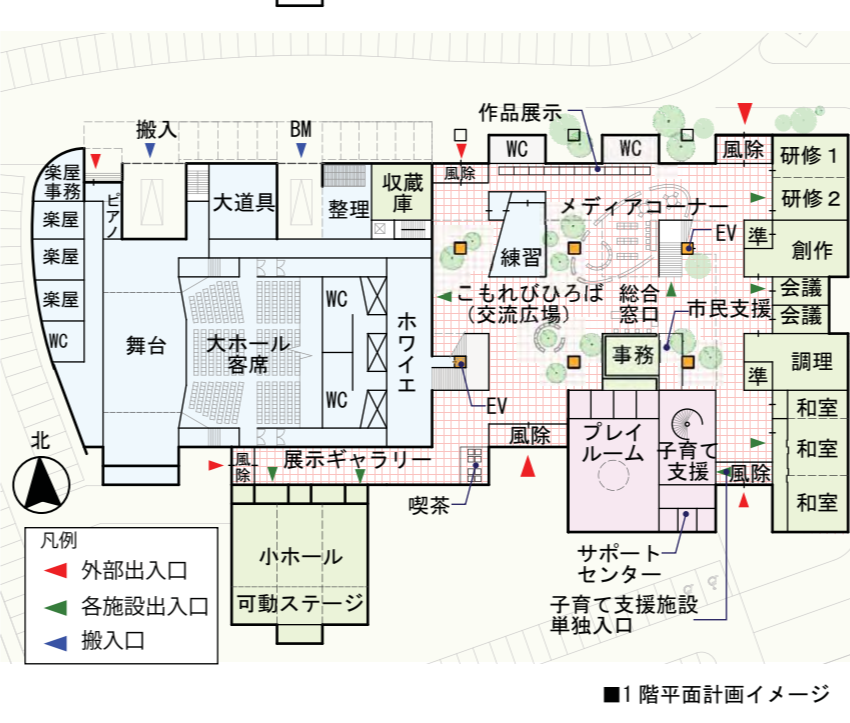
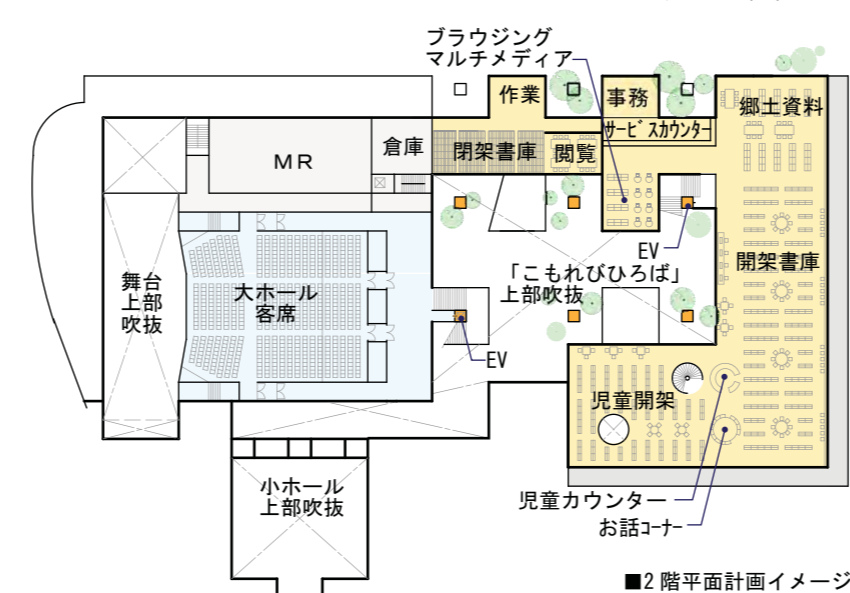
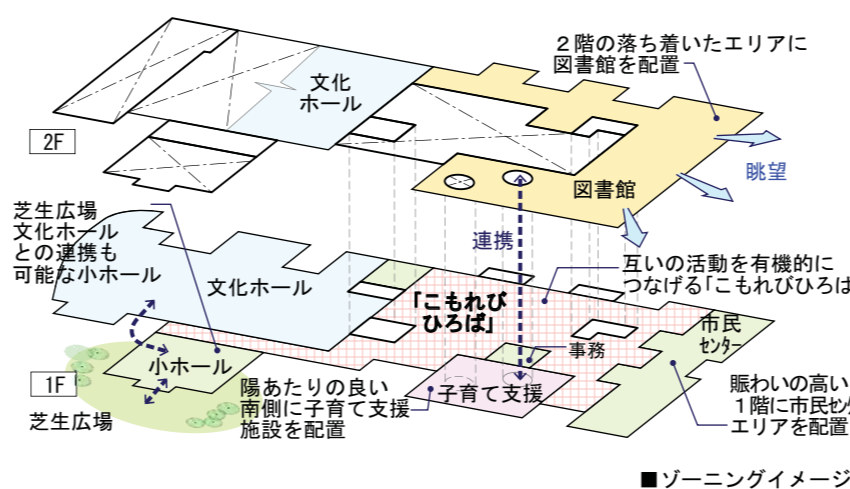


# いつも市民で賑わう「こもれびひろば」を提案します -みどり溢れるひとつ屋根の下に四季を通して市民が集える場所をつくります-

「鹿角市は、緑の山々と清流、そして悠久の歴史に生まれ、市民の生活と個性豊かな文化を築いてきました。私たちは、人と森の有機なつながりや時の流れを大切に、四季を通して豊かな「文化の杜」づくりを進めてゆきます。」



④「こもれびひろば」を中心に互いの活動が見え、複合施設としての相乗効果を最大限発揮できる計画とします



〈課題2〉 新たな文化・交流の創造と地域社会の活力や賑わいを創出するための施設のあるべき姿と、その実現に向けて市民との共働の手法によって施設整備並びに施設運営を進めていく考え方について

①敷地全てが市民活動の舞台として賑わいを創出する計画とします

・緑の環に囲まれた文化ホール、図書館、市民センター、子育て支援センター、屋外広場、駐車場など、敷地の全ての場所が市民活動の舞台とされます。施設利用者のみならず誰でも通り抜ける「こもれびひろば」から複合施設の活動の様子が感じられ、街に賑わいを発信すると共に新たな市民参加の触発を促す計画を行います。

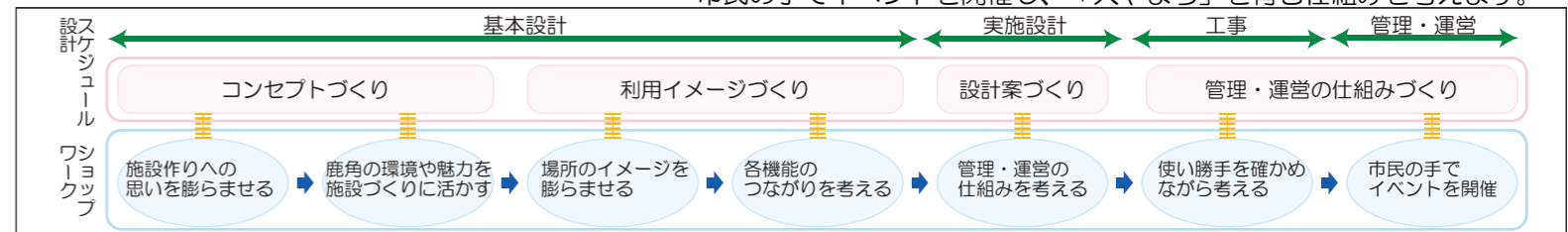
②施設の完成と共に「人やまち」を育む「共働」による計画を行います

■コンセプトづくり  
 市民と共に、敷地周辺の自然環境や鹿角の歴史を再認識し、施設づくりのコンセプトや仕組みに活かします。

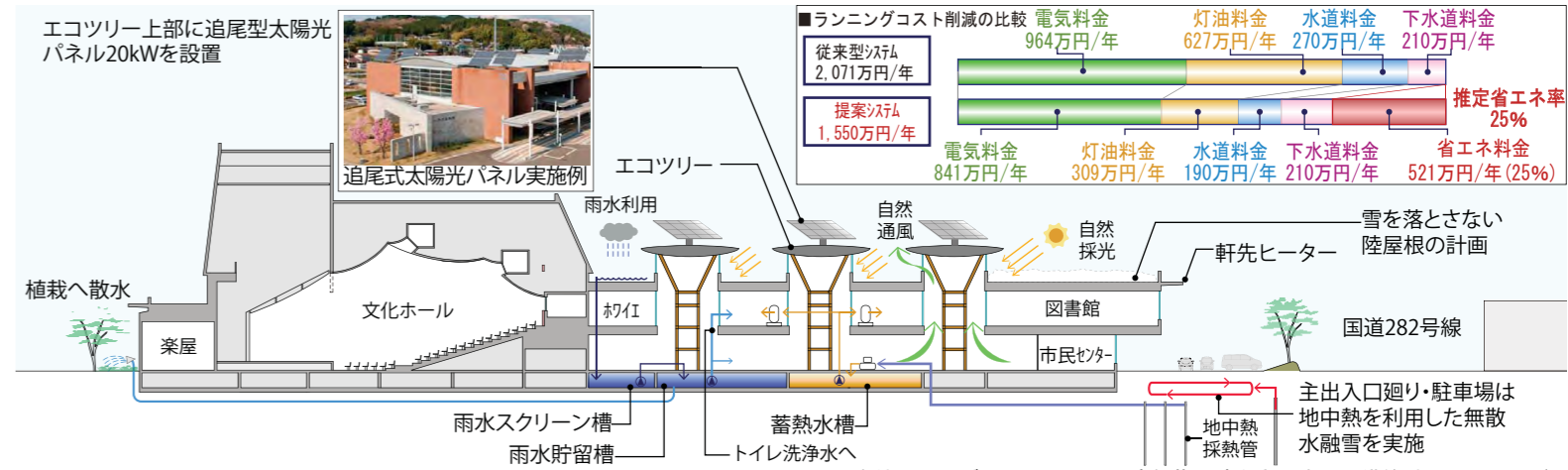
■市民活動イメージ  
 実際の活動を想定し、部屋の機能や広さ等、施設のつながりを考えます。

■管理運営の仕組み  
 市民が運営しやすい仕組みを考えます。また、類似施設の調査など開館に向けた準備をサポートします。

■市民によるイベント開催  
 市民の手でイベントを開催し、「人やまち」を育む仕組みを考えます。



〈課題3〉 環境に配慮した省エネルギー対応と自然エネルギーの有効活用や、建設及び維持管理コストの最適化によって総合的に経済的な施設を実現するための考え方について



①地中熱の活用や雨水利用など、自然エネルギーを積極的に採用し東北の建築ならではのライフサイクルコストの低減を図ります

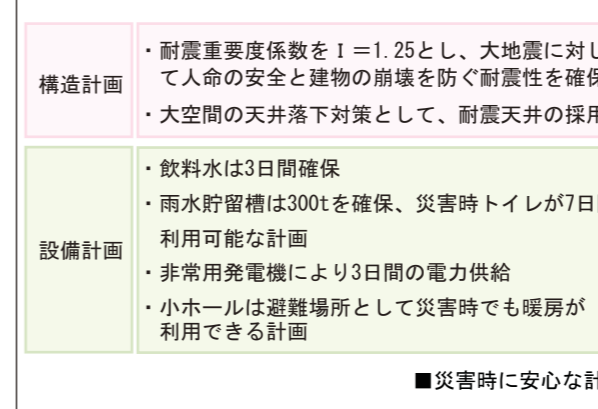
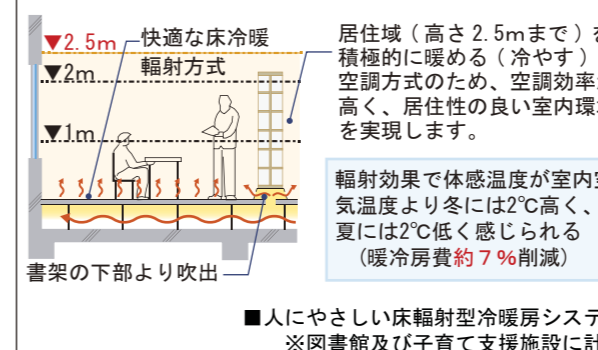
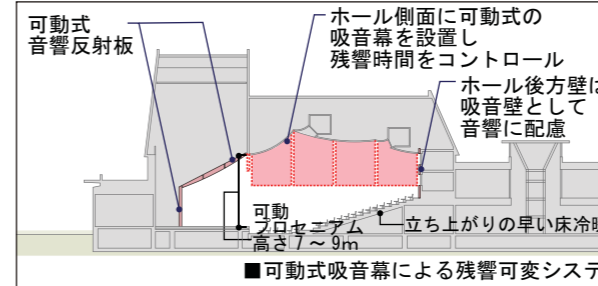
■地中熱を利用した空調用熱源システム(空調運転コスト40%削減)  
 夏は冷たく、冬は暖かい地中熱を空調用エネルギーとして利用します。高効率の地中熱ヒートポンプを深夜電力で動かすことで、ランニングコストを40%削減します。

■雨水利用(上水の30%を節水)  
 屋根に降った雨水を雨水貯留槽に貯水し、ろ過した後にトイレの洗浄水や屋外散水等に利用します。

■太陽光利用(年間発電量18,000kWh:灯油缶18L約100缶分)  
 エコツリー上部に追尾型太陽光パネル20kWを設置します。図書館の一般開架と児童開架の照明電力に活用します。

■自然力を利用  
 エコツリーにより自然の力を利用した自然換気、自然採光、熱だまりの解消を行い、一年中居心地の良い環境をつくります。

〈課題4〉 その他の提案



①文化ホールは音楽から演劇まで対応可能な多目的ホールとし、シュボボックス型の響きを大切に計画とします

・様々な演目に対応可能な多目的ホールとして可動式残響可変システムを採用し、残響時間を1.2秒〜1.8秒程度まで可変可能な計画とします。

・ホール内は、空調騒音が少なく空調ダクトの削減が可能な躯体蓄熱式の床冷暖房システムを採用します。床冷暖房システムは特に居住域の暖房を積極的に進めるため、天井のある空間でも効率良く冷暖房が可能な計画となります。(床冷暖房システム採用によりNC-20を実現)

②図書館は木(鹿角産木材)の温もりと優しさを感じる居心地の良い空間とします  
 ・木製書架やフローリングによる木の温もり溢れるデザインとします。また、鹿角産木製チップを原料とした棚板など地域産を活かします。

・図書館は、空気式の床冷暖房システムを採用し、長時間の読書でも体に優しく利用者に負担のかからない快適な計画とします。

・児童と一般開架は緩やかに区分し、互いが干渉しない計画とします。

・ビジネス支援コーナーや郷土資料コーナー(管理エリア)など、鹿角らしい特色のある図書館づくりを行います。

③市民センターは様々な活動を支える機能性の高い計画とします

・小ホールや研修室、また練習室は、浮き床2重壁構造の防音性能とします。

・調理室は、水や非常用バックアップ電源の供給など、災害時に炊き出しが可能な避難施設としての役割も考慮した計画とします。

④子育て支援施設は安心・安全をキーワードに計画を行います

・小さな子ども達が利用する施設として、転んでも怪我をしない床素材の選定など、安心して安全に利用できる計画とします。

・床材は汚れにくく容易に交換可能なコルクタイルや樹脂マットを採用し、内装材はシックハウス対策材を採用します。

⑤適切な融雪範囲の計画や除雪など積雪を考慮した計画とします

・出入口廻りや駐車場は無散水融雪を行い、除雪の手間が省ける、積雪時でも利用しやすい計画とします。